

北朝鮮の水爆実験に抗議する

2016年1月6日

核戦争に反対する医師の会

代表世話人 中川武夫

代表世話人 原 和人

代表世話人 飯田 哲夫

北朝鮮は6日、同国で2006年、09年、13年に続いて4度目の核実験を水爆により行ったと発表した。広島と長崎への原爆投下で20万人を超える市民の命を奪われ、いまなお原爆放射線による後障害に苦しむ多くの被爆者が存在する日本の医師の団体として、同国の核実験に強く抗議する。われわれは、いかなる核兵器の開発・実験・配備・使用に断固反対するものである。

同国の核実験は、「核実験またはいかなる挑発もこれ以上実施しない」ことを求めた国連安保理の2087決議に違反する。

北朝鮮は、水爆実験は、米国の核の脅威からの国の自主権、民族の生存権を守るための「自衛的措置」と主張した。

今後も米国の敵対的な姿勢が根絶されない限り、「われわれの核開発中断や核放棄は絶対にあり得ない」と表明したが、核兵器およびこれを運搬する「ミサイル」の開発を続けることは、国際的な孤立を深めるだけである。

同国の核実験に対して日本では、独自制裁の強化に動き出した。日本政府は昨年9月成立した憲法違反の安保関連法により集団的自衛権を行使し、米軍と自衛隊との共同行動を狙っている。しかし軍事的な措置で互いに対抗し合うことは、危機を深刻化させるだけである。

いま求められていることは、あらゆる国が北朝鮮との話し合いの場を探り、同国との対話を開始して外交的・平和的に事態を解決することである。

唯一の被爆国である日本の政府には、核兵器と核実験の全面禁止を提唱し、問題解決の先頭に立つことを要求する。

以上